

## 平成 26 年度 第 3 回福井市行政改革推進委員会 会議概要

1 開催日時 平成 26 年 10 月 30 日（木）13:55～15:40

2 開催場所 市役所本館 8 階 第 3 委員会室

### 3 出席者

(1) 委員 南保勝 委員（委員長）、稲葉明美 委員、  
今村善信 委員、岡山宇太郎 委員、奥村清治 委員、黒川俊枝 委員、  
齋藤万世 委員、澁谷政子 委員、田村洋子 委員

※ 内山秀樹 委員（副委員長）は欠席

(2) 事務局 総務部長、総合政策室

### 4 会議次第

- ・ 開会（市民憲章唱和）
- ・ 協議 (1) 福井市行財政改革指針の改訂について  
(2) 外部点検について
- ・ 閉会

### 5 協議の概要

	<b>協議事項（1）福井市行財政改革指針の改訂について</b> <b>資料 1-1 資料 1-2 資料 1-3 資料 1-4 資料 1-5 資料 1-6</b>
委員	No.11「市民活動の総合支援」について、先日、外部点検で総合ボランティアセンターの事業に「再構築」という意見になった。指針では「継続・拡大」とされているが、外部点検の結果は予算や施策にどういう反映がなされるのか。 また、現指針のNo.5、6 公の施設についての取組が終了、削除となり、No.11「ファシリティマネジメントの推進」が、改訂でNo.7「公共施設等の総合的な管理による老朽化対策の推進」になるということだが、改訂後は施設について、ハードの面だけのマネジメントになるのか。ソフト面の管理も視点に入れてはどうか。
事務局	一点目の総合ボランティアセンターについて、指針では、センター等の拠点の運営を通じて今後「市民活動の総合支援」をしていくという項目として設けた。外部点検ではボランティア活動の支援事業というソフト事業を点検いただいた。指針と外部点検の意見がどういう結果になるかというご質問か。
委員	市民サービスの向上という点ではワンストップが望ましい。現在、アオッサにあるNPO支援センターがふくい県民活動ボランティアセンターなどと連携を取れているということもあり、移転統合するのであればもったいない。決定事項なのか。

事務局	市の総合ボランティアセンターは西口再開発ビルに設置する。現在アオッサにある NPO センターはアオッサに継続して設置する。駅の東西にセンターがまたがるので、それぞれの役割を検証し連携してより効果がでるようにしたい。外部点検で指摘いただいた内容については、担当所属で検討しているところ。
委員長	今の意見は、大切な切り口であり、市民活動の支援の中身は検討してほしい。
事務局	外部点検の結果については、2 月下旬に予算への反映等、市としての対応をお示しする。同時期に指針改訂の公表を予定しており、できる限り整合を図る。 二点目に関して、改訂で、計 6 事業が指針から削除になるが、やらなくなるわけではなく、市として継続してやっていく。 改訂版のNo.6「公共施設等の総合的な管理による老朽化対策等の推進」は、既存の市有施設について維持、建替え、廃止のいずれの対応をとるにしてもコストがかかるため、今後のあり方を決めていく取組。その中でもコスト、ハードの面からだけでなく、施設の利用状況、利用者の年齢層や性別、地域の状況を勘案しながら施設それぞれにあるべき姿を目指す。管理の方法など今後 2、30 年のスパンで考える。
委員	中身もしっかりやってほしい。庭も立派であり、もっと使いやすいと良い。
委員長	いわゆる「マネジメント」をしていってほしい。
事務局	期待を裏切らないようにやっていく。
委員	現指針のNo.14「職員数の適正化」が削除となる。職員の定数が減ると、ソフト面、職員の資質向上が重要になってくる。この関連の担当所属として職員課が多くあげられている。市民に近い部署と技術系や内部事務などでは、市民への対応の差が相当ある。 職員課だけでなく、いろんな部局が関わって、資質向上に取り組んでいただきたい。
事務局	取組項目はまだテーマの段階で、今後、個別の事業をぶら下げていく。職員課を担当所属としているが、取組の入口と考えている。 定員適正化は、職員数の削減で進んできた。職員の数が絞られてきて、今後は質が問われる。今後は必要な部署に必要な事務に必要な人数を当て、職員の質を高め量の適正化と両面で取り組んでいく。
委員長	組織体制の見直しも、職員課だけではできないと思う。
事務局	行政の事務は、国の施策の方向性があるもの、市長の政治課題などいろいろあり、時代に合わせて組織を見直し、あわせて職員の質の向上に取り組む。

委員	<p>No.2「総合支所の見直し」について、福祉会館のような市全体の施設の廃止とは性質が違って、総合支所が廃止ということにでもなれば地域住民にとって大きなインパクトがあると思う。</p> <p>職員課が担当となっているが、総合支所をどうこうすることになれば、総合政策室や行政管理室が担当するのではないのか。職員配置だけなら職員課担当だとは思いますが。</p>
事務局	<p>総合支所については、現在、市役所に担当理事を置き、各支所には次長級の支所長を配置し、その下に2課体制をとっている。</p> <p>合併協議では10年経ったところで総合支所のあり方を見直すこととしている。</p> <p>3町村と合併する前にも森田や足羽、川西などとの合併もあったが、ある程度の年数を経て出張所などに集約していつている。</p>
委員	<p>職員課だけが担当するものではないのでは。</p>
委員長	<p>庁内で連携してあたるのか。</p>
事務局	<p>地域審議会の存廃も含めて検討していかなければならない。他の項目と同様に、職員課だけでなく必要な部署、所属が入りながら検討していく。</p>
委員	<p>「追加」のうち、No.17から19まで推進項目の欄に2つ〇が付いている。整理し切れていない印象を受けた。どちらか1つに絞った方がいい。個人的には(3)に付けている〇は削るべきだと思う。</p> <p>2つ〇が付いていると、意図がぼやける。どちらか明確にしたほうが良い。</p>
委員長	<p>選択と集中。いい意見だと思うので、参考にしてほしい。</p>
委員	<p>現No.19の「市民主体」からNo.13「主導」に変わった。住民が引っ張っていく印象が強い。この取組で何か進展、発展があったのか。</p>
事務局	<p>唯一遅延している事業がある項目。NPOやボランティア団体を含め地域の活動に関する取組を強化する意味もあって設定した。</p>
委員	<p>市民活動をしている立場からは、指針では「主導」の方がよい。団体やNPOなどは補助金、助成金や委託料頼みの部分もあり、こういった資金が途絶えると、即継続の危機に陥る。</p> <p>活動に必要な自主財源を自ら確保するという団体の意識を育てるためにも「主導」がよい。</p>
委員長	<p>イニシアティブを行政と市民のどちらがとるかという問題。悪く考えると行政</p>

	<p>が手を放しているようにも受け取れ、理解の仕方が悩ましい。</p>
委員	<p>下手をすると勝手な活動をしていても「主導でやっている」となり、活動がばらばらになる。表現に工夫の余地がある。</p>
事務局	<p>No.11、12 で連携に取り組んでいく。行政がやるどころ、住民にお任せするところが出てくる。財源も人的資源にしても行政資源には限りがあり、お願いしていかないと成り立たなくなる。制度として必要な支援はしていく。</p> <p>ボランティア、NPO、協働など市民の認識には差がある。市民がどういうふうにかまづくりに関わっていただけるかというところは課題。</p>
委員	<p>県の社会福祉協議会などがやっている福祉のまちづくり計画の委員会でも似たような話をしており、自治会連合会の代表や、民生委員の代表などが委員だが、住民参画とか市民が主導してという話が出る。</p> <p>そういった活動はたくさんあり、行政から一括してではなく、それぞれの依頼元からバラバラと依頼が来る。誰も何をやっていいのかわからない状態であったり、一人があちこちに顔出して忙しくなったりなど、どれもうまくまわっていない印象を受ける。</p>
事務局	<p>外部点検でも生活安全の取組などで同じような指摘をいただき、「再構築」という意見をいただいた。</p> <p>現在の地域活動は、行政として住民に頼んでやってもらってきた旧体制と、住民自らが課題に取り組んでいく新体制が入り混じる過渡期にある。任せる分野は任せるなど、行政としても割り切りが必要になる。</p>
委員長	<p>地域活動へのモチベーションを上げるのは住民の責任。仕事も一緒に意識変えるのは自ら。住民意識を住民自ら変えていかないといけない時代。</p> <p>住民自らが立ち上がる気概を養わなければならない。</p>
委員	<p>市の各所属も社協も、それぞれに計画を持っていて、1つ1つは素晴らしいがバラバラであるために、大きな力になっていかない。</p>
委員長	<p>行政サイドで1つにまとめる役割があってもよい。</p>
委員	<p>行政改革推進委員になって2年目だが、目標設定がないとか、明らかに目的と違う目標を設定している事業がある。No.1「事務事業点検の実施」の項目の中でもいいので、適切な目標設定をするという内容を入れてほしい。</p> <p>行政サービスでは他にサービスを提供するところがない、外部委託できないという事業もあり、絶対続けなければいけないならば「効率的に実施するためにこうする」とか「この3年間ではこうする」という目標がなければ、続けるとか拡大するとかいった評価はしづらい。行財政改革には必要なことだと思う。</p>

<p>委員長</p>	<p>また、事業の統廃合が目標にないのはおかしい。財源がない中、事業が増え、いくつもの事業をあわせて見ないと全体像が見えないのでは、必要性が評価できない。</p> <p>そもそも違う目的で始まった事業でも、継続する中で似てくるといことならば、統廃合を考えたほうが良い。削る以外にも、くっつけてまとめるという考えも必要。</p> <p>部門を横断して同じようなことをやっていて、まとめないのはもったいない。再構築や廃止にならないとすれば、事業は増え続け、あまり健全ではない。</p> <p>市長に外部点検の報告をした際に、行政では分業化が進みすぎて、かえって足かせになっているという話が出た。鯖江のめがね産業に似ている印象を持った。残さざるをえない事業があったのだろうが、今後職員が大変になる。人が減り、仕事が増えていく中では仕事を切っていく必要がある。</p>
<p>委員</p>	<p>この2年で大胆にやって、次の総合計画ではスリムに。</p>
<p>事務局</p>	<p>市長からも決意表明があった。行政の事業には多少なりとも利害関係者がいるなど切りにくい事情がある。集約し見直す中で縮小したり廃止したりできれば。</p>
<p>委員長</p>	<p>この委員会が声を上げることで進めやすくなればよい。</p> <p>他に意見はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>改訂のNo.7「業務向上」という言葉は一般的過ぎて中身がイメージしづらい。項目の名称について何か表現の工夫を考えてほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>経営の立場では黒字を事業目標にする。行政は、民間でできない分野は赤字ありきで考えていいが、「いつまでに何をどうする」という目標設定があるべき。</p> <p>No.8、9、10あたりの取組として目標設定について取り組んでもいいのでは。</p>
<p>事務局</p>	<p>色んな視点で行政としては取組をしてきた。指定管理者制度も、民間のノウハウを導入することによって市民の利便性向上と、コスト削減を目指した。</p>
<p>委員長</p>	<p>有効性と効率性が経営の両輪。</p> <p>2年だからこそやり残さないように進めてほしい。</p>
<p>委員長</p>	<p><b>協議事項（2）外部点検について</b><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span></p> <p>市長からは中身を改めるところは改め進めていきたいという言葉があった。</p> <p>私たちと同じような目線で、いらぬ事業の削減、見直しやひとつのところに仕事集中することについて考えているという意見をいただいた。</p> <p>報告は終わったので、これから先の話として、事業選定や資料など来年度にむ</p>

	<p>けて、何か意見、質問等はないか。</p>
委員	<p>私も委員を3年やってきて、だんだんと細かい予算の点検になってきた。これからは、たとえば①100万円以下は見ない②市の行政、市民に負担が大きいもの、金額が大きいものを対象にしてはどうか。</p>
委員長	<p>点検して批判するばかりではなく、委員も知恵を出して事業を充実させるのが目的と考えると、予算額が小さい事業は行政に任せて、ボリュームある事業を点検すべき。あるいは、行政として悩んでいる事業を点検に出してもらうのもよい。</p>
委員	<p>今年度委員になって、外部点検も初めてだった。今年度の防災センター運営事業は、昨年の対象事業と一体の事業を、2年かけて半分ずつやったことになるのではないか。細分化されている事業でも、一体化して全体を点検したほうが良いと感じた。そのためには、時間を2倍とっていいのでは。</p>
委員	<p>防火委員会補助事業。助成金補助団体も同席して説明を受けた方が点検しやすい。</p>
事務局	<p>所属も事前に団体をヒアリングして臨むという姿勢があってしかるべき。提案いただいた、補助、委託先が同席するような手法も考えたい。</p>
委員長	<p>補助先の事業内容もわからないのでは評価のしようがない。</p>
委員	<p>融資先の監査もしていない事業もあった。</p>
委員	<p>事業について説明者みんなが同じ意見で臨んでほしい。事前に確認するなど、事業に向き合いしっかり説明する姿勢を整えてほしい。</p> <p>一生懸命説明されると理解が進み、こうしてはああしてはと意見を出しやすい。</p> <p>言わなくてもわかるでしょうではなくて、0から説明するつもりで準備してほしい。伝わらないのはもったいない。</p>
委員長	<p>担当部署がしっかりしてほしいという事業はあった。</p>
委員	<p>触れてはいけない部分があるのかなあと考えて、質問するのに迷った。</p> <p>こういう質問して、はたしていいのかと悩んで、積極的にできなかった。</p> <p>「ここおかしい」と思っても、質問してしまうと、暗黙の了解を崩してしまうのではないかという恐れがあった。</p>
委員長	<p>何を質問してもらってもいい。</p>

事務局	市民の率直な意見、質問をいただくと、行政がその事業を始めた一番最初の意図や目的が何であったのかが改めてはっきりする。
委員	生活安全活動には委員として参画しているが、外部点検の前から委員会で運営について協議している。来年からは変わっていく。
委員	<p>中心市街地の事業について、活性化計画の概要版が当日配布された。評価する立場としては、ある資料は事前に全部ほしい。直前に印刷が上がってきたなら仕方ないが、すでにある資料は、先に配布をしてほしい。</p> <p>また、職員同士は共通認識を持つべきだが、行政サービスを受ける市民が一人ひとり立場が違うというのと同じように、外部点検を実施する委員は、自分たちと立ち位置が同じでないということを、職員は意識をしてほしい。</p>
事務局	資料については事前に全委員に配布するように、また意識についても徹底し、しっかり説明するように指示する。
委員	今回、市美展を点検する班でなかったのは残念。出展者としていろいろ質問したいことがあった。
委員	市美展は、実行委員と審査委員が完全に一致し、結果的に実行委員が審査委員としての報酬を受けているなどおかしな点があった。
委員	昔からその点は変わっていない。
委員	県美展でも構図は同じ。
委員	<p>初めて外部点検に立ち会って意外に感じたのは、行政側に守りの姿勢が多かった。</p> <p>「お金足りない」「こんなことやりたい」というプレゼンテーションや、「今は無理だけど将来はこうしたい」というビジョンの提示がなかった。</p>
委員長	<p>事業仕分けのイメージが、行政にも根強くあるのだろう。</p> <p>過去の外部点検では、資料の時点でこれはだめだろうという事業でも、担当職員がビジョンを語り、アピールすることによって、委員も意気を感じて、全く逆の「拡大」という結果になったこともあったし、その逆もあった。仕事に対する意欲は人によって違うのだが、こちらに伝わってこないときさみしい。</p> <p>民間でも行政でも異動で経験を積んでジェネラリストになるということが増えてきたように思う。</p> <p>しかし、一つの分野に突出したスペシャリストの育成がこれから必要。そうすると燃えてきてアグレッシブな仕事ができる。だが、人事制度に深く手を突っ込んで改革する必要がある。人の数から配置を考えると難しいとも思う。</p>

委員	<p>小中学校の文書配送業務も、毎日必要だという説明だったが、本当に毎日必要なのか。民間では実際に事前申請はメールでしておいて、後日原本送付で対応できている。</p> <p>どうしても毎日ではないとだめな理由は聞けなかった。</p> <p>この委員会の日程調整などは、事務局とメールでやり取りしている。行政でもできている部分とできていない部分があるようだ。</p>
事務局	<p>職員の意識も変えていかないといけない。</p>
事務局	<p>押印した文書の受け渡しがあるための配送業務である。</p> <p>文書管理は、行政全体で電子化が進んでいない。データ化はできているが、保存については原則紙となっている。また、支払は原本添付が原則である。</p>
委員長	<p>それでは、これで協議を終了する。</p>

(15:40終了)